



第33号
平成28年
2016

会 報

にしきうら



平成28年度 本部総会（平成28年9月24日 於 須崎プリンスホテル）

高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

ご挨拶	同窓会 会長 林 和夫	1
ご挨拶	校長 竹村 謙	1
学校の近況について	副校長 谷脇 澄男	2
進路指導部より	部長 岡本 和彦	4
2016年7月14日 校内ドラゴンカヌー大会開催		5
2016年7月22日 岩手県立宮古工業高等学校より寄贈されました		6
時代を超えて 須工校歌は我らが誇り…関東支部顧問 野瀬 公介		7
支部便り		
関東支部だより「我が人生これから」	岡本 仁一	9
中京支部だより	高橋洋太郎	9
京滋支部だより「思い出さん、こんにちは」	濱川 嗣郎	10
大阪支部だより	増田 浩	11
高知支部だより	加納 弘史	12
須崎支部だより	坂本 定浩	13
幡多支部だより	宮本 博行	13
事務局便り 28年度総会報告	事務局長 梅原 正博	14
須崎高等学校との統合について		15
終身会費納入済者名 平成25年9月～28年8月末まで		16
会員諸兄にお願い 所在不明者名簿		18
決算報告 平成25年度～27年度 平成28年度予算（案）		50～56
平成28年度～30年度役員名簿		57



ご挨拶

各地の同窓会員の皆さん、それぞれの立場で活躍されご健勝にてお過ごしのこととお察し申し上げます。

本校も今年で創立七十五周年を迎えると共に、卒業生（同窓会員）も三月現在で一〇、五二九名を社会に送り出し、歴史と伝統のある県立工業高等学校として、ここ須崎の地で存在感を示しております。

しかし、ここ数年前より課題となっておりました本校受験者数（入学生徒数減）の減少が、県教育委員会が出しております県立高等学校の再編振興計画にあります適正規模（学年四学級）問題に引つかつており、隣の須崎高等学校も本校と同じ課題があつて、須崎地区の両高等学校が統合（学年七学級・工業科系三、普通科系三、定時制二）し、高吾地域において適正規模を維持し活力ある中核的な高校とすることが決定しております。適正規模を維持することにより、生徒の個性や多様な進路希望などに対応した習熟度別の学習指導や総合選択制を取り入れた教育課程の編成など、きめ細やかな学習指導や団体競技の運動部等も相当数置くことで、部活動や特別活動等においても生徒同士が切磋琢磨し、活気あふれる学校づくりをすることができると考えています。

さらに、南海トラフ地震への備えとして、須崎高等学校を高台にある本校への移転をして、新たに校舎の増築等による学習環境の整備、新たな通学路（避

撈

昭和四十一年化学工業科
高知県立須崎工業高等学校 同窓会

会長 林 和 夫

難路）の整備を行う。

このように大きな教育目的等を持つて、平成三十一年度に統合という両校や地域社会にとつては大きな出来事に進んでおります。

同窓会といたしましては、これまでも統合に関する会合等に参加し、他の関係者とも連携しながら、意見や要望等を出して来ましたが、同窓会全体として纏める機会がありませんので、理事会等の場で議



ご挨拶

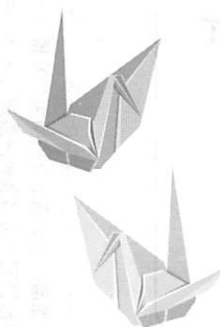
同窓会の皆様方におかれましては、いかががお過ごしでしょうか。高知県内はもとより、全国各地において、様々な分野で、ご健勝、ご活躍のことと存じます。

また、日頃は母校須崎工業高等学校の教育活動に対し、多大なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

申し遅れましたが、私は平成二十六年度の人事異

題とし意見集約などをしながら対応をしております。同窓会の目的、会員の親和と母校の隆盛を図るということを考えますと、新しく出来す統合高等学校の発展を願はなくはなりません、同窓会と致しましては学校側等と連携を取りながら協力してまいります。

最後になりましたが、各地の同窓会員の皆様方が益々のご健勝であられますことを祈念し挨拶いたします。



撈

高知県立須崎工業高等学校

校長 竹 村 謙

動におきまして、佐々木菊雄前校長から須崎工業高等学校の校長を引き継ぎ、三年目を迎えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

本校に着任した日から毎朝、小高いこの地に堂々とたたずむ校舎までの坂道を登りながら、造船・機械・電気情報・ユニバーサルデザイン科の四科を有し、七十五年の歴史と伝統を誇る須崎工業高等学校

に勤務できるという誇りと喜びとともに、校門を抜けて目に飛び込んでくるミニメントの「いかり」と「スクリーン」に接し、大きな重い責任を感じています。

そして、この二年半、初めての工業高校勤務ということで、新入生と同じように期待と不安でいっぱいでしたが、元氣ですがすがしい挨拶をしてくれる生徒たちと、やる気と情熱をもって様々な取組を進めてくれる教職員から多くの力をもらいながら、何とかつがなく過ごしてまいりました。

さて学校のこの三年間の状況に關してですが、卒業生の進路については、この間の卒業生全員の進路希望を実現することができています。これは本人の努力はもちろんではありますが、県内外にいらつしやる多くの同窓生のこれまでの活躍の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

また、部活動においては、男子バスケットボール部や女子ハンドボール部の四国大会出場、造船部の柳川ソーラーボート大会高校生部門にけるスラローム・周回二種目連覇達成など、よく頑張ってくれています。

そして、この他にも学校全体で生徒のより豊かな将来を保障していくこうとするキャリア教育の取組が高く評価され、平成二十六年一月に「文部科学大臣表彰」を受けることができました。さらに平成二十六年十一月には、生徒会を中心とした地域清掃活動や自転車盗難防止運動、防犯活動といった地域貢献活動が評価され、「社会貢献青少年 内閣府特命大臣表彰」を受賞しています。また、平成二十七年一月には、工業高校ならではのものづくりを生かした防災、減災活動による地域貢献が認められ、「ぼうさい

甲子園 高校生の部 優秀賞」をいただくことができております。

このように、様々な分野で須崎工業高生は活躍しておりますが、それらは地域に支えられ、特にその中にいる多くの同窓生の支援を受けることができた結果であると考えております。本当に有り難うございました。

須崎工業高等学校は、同窓生の皆様方は当然ご存知のこととは存じますが、須崎市出身の元郵政大臣、寺尾 豊先生のご尽力により、昭和十六年に創立されて以来、「信頼と尊敬に値する工業技術者の育成」を目指し、「勤勉、規律、友愛、美化」を教育目標に、歴史を刻み続け、卒業生も一万人を上まわる県中西部の工業教育の拠点校として、地元はもとより、全国にも優秀な人材を輩出してまいりました。現在もその伝統を引き継ぎ、教職員が丸となって、生徒一人ひとりの確かな学力、工業高校生としての専門的な知識や技能、そして、社会のルールやマナーの習得など、これからの時代を生き抜くことのできる

人材の育成に努めております。しかし、教育は学校だけでできるものではなく、同窓会をはじめ、多くの方々のご支援があつてこそ、はじめて達成できるものです。ぜひ、本校の様々な教育活動に對しまして、なお一層のご理解とご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、ご心配いただいております、平成三十一年度の須崎高校との統合については、新校名の検討や校舎の新築、改修などといった具体的な取組が、平成二十八年度後半から徐々に本格的な動きとなつてきます。様々な場面で、同窓生の皆様方にもご意見をいただける機会が出てくることもありまうので、ぜひ新聞、テレビなどのメディア等からも最新の情報を得て、様々なご提案等をしていただければ幸いです。

最後になりましたが、須崎工業高等学校同窓会の今後ますますのご繁栄と同窓生の皆様方のご健勝をご祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

学校の近況について



高知県立須崎工業高等学校
副校長 谷 脇 澄 男

同窓生の皆様におかれましては益々ご清祥にて、各方面で活躍のことと存じます。また、日頃は母校並びに後進の指導にご理解をいただき、ご協力・

ご支援を賜っておりますことに感謝申し上げます。私は、昨年度から副校長として勤務しております谷脇澄男です。副校長という職務の者は、従来は本

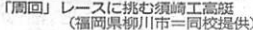
それでは、以下、学校の近況について、簡単にご報告させていただきます。

毎年の開校記念行事には同窓会の役員の方のご臨席をいただき講演会を開催しております。最近は、高校生に故郷・地域の振興に対しての理解と思いをもってもらいたいという主旨で、昨年度は、「鍋焼きラーメンと町おこし」について須崎鍋焼きラーメンプロジェクトリーダの矢野明広さん、本年度は、「奥四万十博と須崎市の地域おこし」について、奥四万十博推進協議会の守屋麻紀さんと、元須崎市地城おこし協力隊の上野伊代さんにご講演をしてもらいました。昨年度は、同窓会のご好意により、お昼に須崎名物の鍋焼きラーメンを全生徒・教職員にふるまっていたきました。生徒たちは大喜びで、美味しそうに食べていました。本当に有り難うございました。

現在本校は、機械科、造船科、電気情報科、ユニバーサルデザイン科の四科編成となっています。生徒数は、二百八十九名（一年九十二名、二年九十四名、三年百三名）となっています。この春の平成二十七年度卒業生は九十七名で、機械科三十九名、造船科十六名、電気情報科二十五名、ユニバーサルデザイン科十七名が新たに同窓会の会員となっております。先輩諸氏におかれましては、今後ともご指導



周回V3
スラロームV4



（山本 仁）

回った

のほどよろしくお願いいたします。

生徒は「工業報国理想」と校歌にもあるように、ものづくりの精神と技術・技能を身に付けるために日々励んでいます。その中で三年生はその学びの集大成として毎年二月に「課題研究発表会」を開催しています。その会には地元市の市長さんや企業訪問などでお世話になっている企業の方々や地元の中学生など多くの人たちを招待しています。本年の二

周回では「電力を温存し、終盤までスピードを維持する」作戦が功を奏した。心配していたマシントラブルもなく、1位の「Ⅲ」は39分29秒でゴールし、自らが持つ学生記録をおよそ一分半も上回った。

月の会では、「バギーカーの製作」「レベルメーターの製作」「和船の建造」「マルチコプターの製作」などの発表をして来賓の方々からお褒めの言葉を多くいただくことができました。

その他にも、本年の六月に開催された高校生ものづくりコンテスト四国大会に、電気情報科の三年生が電子回路組立部門に出場して、奨励賞という三位に該当する賞をもらいました。また、本年の七月に開催される四国地区高校生溶接技術会にも県予選を勝ち抜いて機械・造船・ユニバーサルデザイン科の三年生たちが出場することになっています。

部活動

本年度、体育部関係で四国大会に出場したのはハンドボール部女子と相撲部（個人）でした。同窓会からは、激励とともにご芳志をいただき遠征等の部活動に活用させてもらっています。残念ながら、初戦で敗退しましたが、次年度に向けての良い経験になりました。

文化部関係では、造船部が福岡県柳川市で行われている「柳川ソーラーボート大会」に、本年度も参加して四連覇に挑むようになっていきます（七月時点）。

地域貢献

地域に若者の数が減少しているため、学校側から自主的に地域貢献の活動をする一方で多くの団体からも要請を受けています。学校の所在地のある公民館からは、年末に子ども会のための餅つき大会に呼ばれ生徒会のメンバーが餅をついたり、近くの病院からは、患者とその家族と病院の交流のための催しの会場作りや模擬店の販売などの協力をしてたりして

います。いずれの場合も主催者の方たちからは、「さすが高校生！」と喜ばれています。

また、防災関係において工業高校の特色を活かして頑張っています。緊急時の避難に役立ててもらうために、ソーラーシステムによるLEDの誘導灯や

投光器を製造しています。

最後になりますが、同窓会からはいろいろな機会に本校の学校活動に対して物心両面のご支援をいただいていることに改めて感謝を申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。



進路指導部より

部長 岡本 和彦

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日ごろは本校教育推進に対し、ご理解ご協力を賜り心から御礼申し上げます。

【進路指導部の取り組みについて】

本校では入学時より段階的に、自己分析や職業選択に関するガイダンス、進路講演、スキルアップ講習、PTA役員による模擬面接指導、保護者を対象とした講演会など外部の方々にご協力いただきながら「キャリア教育」を実践しております。今後も継続して、生徒に「よい刺激」「考える力」を与えるプログラムを計画・実行し、高校生活三年間で子どもたちが主体的に自己の進路を選択・決定し、しっかりとした勤労観や職業観を身につけることができるように努めてまいります。

【平成二十五～二十七年度の進路状況について】

平成二十五年度以降につきましては、経済状況の回復や、団塊の世代の大量退職にともなう技術伝承の必要性などから、高校生に対する求人数は大幅に増加しました。その中でも、高知県内における求人数の増加が大きく二・四倍となっています（参考①）。有効求人倍率も九・二二倍と就職については非常に恵まれた状況となっています。そういった背景の下、進路状況も少しずつ変化が出ています。就職者の割合が年々増加し、就職に強い工業高校の姿を取り戻しつつあります。また、求人数の増加にともない、高知県内での就職者が増加し、昨年度については県内就職者が県外就職者を超える結果となりました（参考②）。

進学に関しては、授業料等の負担額が大きいこと

や、高知工科大学の公立化にもなって進学者、特に大学・短大進学者数が減少しています(参考③)。専門学校や高等技術学校等への進学者については資格取得など明確な目的意識を持って進学している生徒が多く、最近多いと言われる「消極的な進学」は少ないと思われます。

具体的な就職先、進学先、また進路状況については、毎年学校ホームページに掲載しております。そちらをご覧ください。

最後に、生徒の進路保証に関しましては、何よりも同窓生の皆様方のご支援があつての結果であると考えております。今後ともどうか一層の母校へのご支援をお願い申し上げます。

●参考①：学校求人受付件数

《H25》四四五件(県内八〇、県外三六五) ↓

《H26》五六〇件(県内一〇二、県外四五八) ↓

《H27》七五六件(県内一八九、県外五六七)

●参考②：進路決定状況

《H25》就職者六八%(内 県内三九%、県外六一%) ↓ 《H26》就職者七五%(内 県内四六%、

県外五四%) ↓ 《H27》就職者八五%(内 県内五二%、県外四八%)

●参考③：大学・短大進学者数

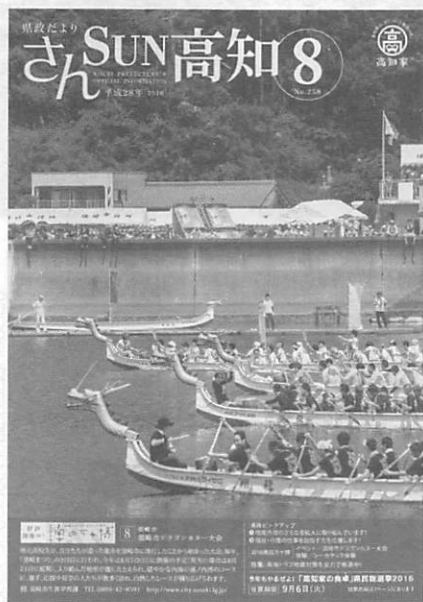
《H25》大学五名(高知工科大学含む)、短大一名 ↓ 《H26》大学二名、短大〇名 ↓ 《H27》大学〇名、短大一名

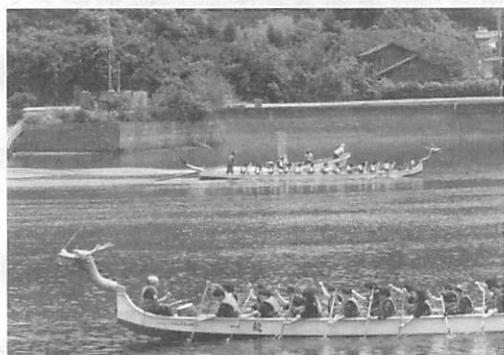
や、高知工科大学の公立化にもなって進学者、特に大学・短大進学者数が減少しています(参考③)。専門学校や高等技術学校等への進学者については資格取得など明確な目的意識を持って進学している生徒が多く、最近多いと言われる「消極的な進学」は少ないと思われます。

2016年7月14日

校内ドラゴン

カヌー大会開催





2016年7月22日
岩手県立
宮古工業高等学校
より寄贈されました。



時代を超えて 須工校歌は我らが誇り

昭和三十一年電気通信卒 野瀬公介

それは二〇一一年のある日、母校にかかつてきた一本の電話から始まりました。

今は亡き大先輩で関東支部の最長老のお一人だった田所定夫氏(20MⅡ/2014・10・12没・87歳)がその電話の主。

(校歌・改訂前)

1 須崎工業高校の 教の庭に身と心

新天地光明の 輝くもとに勇ましく

日々鍛いぬく 健児団

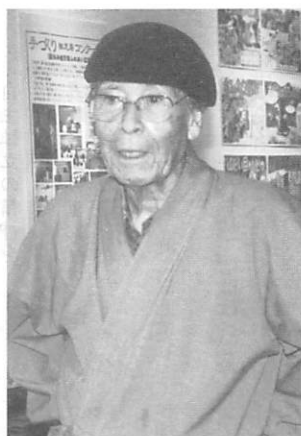
電話の趣旨は、『校歌の歌詞表記がおかしいではないか?』『そもそも、鍛いぬくという日本語があるか?』とのご指摘。(右記線部分)

幸か不幸か、職員室でこの電話を受けたのが西山庸一教諭(造船科48S)。

以来 西山先生はこの問題が一段落するまでこの『国歌問題』に引きずられることになりました。

筆者も西山先生からこの問題を持ちかけられ、関東在住の大先輩からの発議となるといくら専門外とはいえ、傍観するワケにもいかなくなり、どっぷり浸かる羽目になりました。ここにその顛末の一部を記します。

昭和二十年代、そもそも遠く離れた仙台にお住まいだった土井晩翠先生(『荒城の月』の作詞者)に母



市原麟一郎先生

校の校歌づくりをお願いした経緯からたどり、田村隆徳先生(故人)や市原麟一郎先生、大崎二郎先輩(19M)などのお名前が見えて参りました。

幸いなことに市原先生はその時点でも高知市内で元気(に)活躍中だと分かり、何度かの文通のあと、高知県立文学館で展覧会開催中の先生を訪ねました。

そうするとありがたいことに六〇年以上前に原作者・土井晩翠から送られてきた校歌の原文を市原先生が大切に保管してくださっていました。(さもなくば、多分昭和二十三年七月の校舎火災で消失)

この原文はその後、校長室で大切に保管されることになりました。

原作が仙台から母校に届いたのが昭和二十三年四月、この時点で当時の文部省は仮名遣いや学校制度などを相次ぎ改革・発令したため、これらの指示に

須崎工業学校歌

須崎工業学校の

教の庭に身と心

新元氣に光輝の

輝くもとに勇ましく

日々鍛いぬく 健児団

自然の晴系わが教

太平洋に花散は

ぬ人々の活動か

文ふ 心の平穩は

波靜に 錦浦

工業 龍岡理恵

自主獨立精神を

抱き 貴族を尊ら

真摯と 志を奮ふ

わが 向上の道を歩

昭和二十三年

土井晩翠

詩集

所依歌り校

校歌 あけの

字 終りた。

是つて 何か

訂正の おま

を 告げ 一

下 告

お 告 用 止

何 止

仙 臺 王 行

市 原 麟 一 郎

佑 又

高 知 縣 須 崎 市

須 崎 工 業 学 校

市 原 麟 一 郎

仙 臺 市 花 壇

土 井 晩 翠

昭和二十三年

も従う義務が生じ、その結果、あらためて吟味するとなにかおかしい、ということになった次第です。

この原文と比較してそれまで永年に亘って歌い継がれてきた校歌の文言表記でなにか違っていたかという、冒頭でマークしたとおり、新文法のつもりで「鍛いぬく」となっています。

ところが原文で「きたひぬく」と表記されている箇所は旧文法では下二段活用なので「きたひ・」
「きたふ・」と変化し得るが新文法に従おうとすると「鍛え・」以外には変化は許されていません。前出の田所先輩のご指摘はまさにこのことを突かれたわけです。

例えば二〇〇五年に作詞された『大ちゃん数え歌』（石本美由紀作詞・のちの天童よしみ歌唱）の五つ目の歌詞では、『五ついても猛稽古／きたえぬけぬけ得意技』とちゃんと新文法に従っています。

しかし当時母校出身者の何人かに尋ねたところ、少なくともわが校歌に限っては「鍛えぬく」より「鍛いぬく」の方が「文学的」で好きだ、という答えが多数を占めました。しかしパソコンで「きたいぬく」と入れても「鍛」という漢字は出て来ませんでしよう？

これらのことが同窓会でも取り上げられ、学校当局に検討依頼が出されて、当時の佐々木菊雄校長が音頭をとられて教頭・事務長などと協議され、土井晩翠の原作に忠実な表現に戻す、という案で一致し、教職員会議や同窓会にも諮られ、母校校歌は下記のとお一部修正されました。

いま二年に一度（西暦偶数年の秋）仙台で『土井晩翠先生が作詞した校歌をいっしょに歌いましょうの会』が行われており、同窓会からも谷博之氏（29

校歌

一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝くもとに勇ましく
日々きたひぬく健児団

二、自然の暗示わが教
太平洋の荒波は
わが人生の活動か
更に心の平穏は
波靜かなる錦浦

三、工業報理想とし
自主独立の精神を
抱き責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐ふ

校歌最新版

M・大阪在住）の音頭で既に三回に亘って参加しております。

再来年（二〇一八年秋）には行ってみよう、とお考えの方は筆者までご連絡ください。

なお、この校歌問題の調査を進めるに当たり、前出の佐々木前校長・西山庸二・教諭・野並允温・前同窓会大阪支部長はじめ多くの方々に絶大なご尽力をいただきました。

また楽譜の表記について複数の間違いをご指摘くださり、更にクラシック界の重鎮・平井先生に作曲を引き受けていただいた経緯などの情報提供を含めて、



土井晩翠先生作詞校歌を歌う会

森本周誠氏（33M）にも大変お世話になりました。ここに敬意を以て厚く御礼申し上げます。

工業系といえどもこのような分野にも興味と郷愁と誇りをもって永遠にこの歌が歌い継がれることを願いつつ……。

二〇一六年秋

同窓会関東支部顧問 野瀬 公介

註 同窓生の卒年についてはいずれも昭和年代につき、平成との区別を表す記号「S」は省略しました。

支部便り

関東支部だより

我が人生これから

昭和四十一年機械科卒業

岡 本 仁 一

二〇一六年七月二日、久しぶりにPCを開きメールを覗いていると、関東支部の福井支部長から「にきうら」へ投稿依頼があり、先輩からの依頼であれば断ることも出来ず、暫く考えていたところ、もう一通、野瀬大先輩から詰めメールがきたことで、確実に逃げ場を失い観念して、簡単であるが卒業して初めて入社した時のことを思い出しながら書いてみる事とした。一八歳の少年が、高齢者となり、現在も様々なことに挑戦を続けていることを少し書いてみることにした。

昭和四十一年三月、機械科を卒業し、神奈川県茅ヶ崎市に所在した東洋PK（現トープラ）に就職、（この会社には須工の先輩が多く勤務していたのを記憶している。特に高知県出身者が多く九州出身者も土佐弁を話すようになっていた。）入社した日に、先輩方がポパイの履くような安全靴を履いて、汚れた格好で現れ、大変驚いたことを思い出す。配属先は現場で、小ネジを生産する仕事だった。機械の稼働

働する音や加工油による汚れ等、きれいな職場ではなかった。早くこの現場仕事から脱出したいと思い、三年経った頃、一部上場企業へ転職することが出来、現場仕事からの脱出に成功した。（この転職が自分にとって、ある意味で人生の生き方を決定づけたといっても過言ではないような気がする。）

六十二歳で現役生活を終わらせたが、何か空しい日々が続き、これではと一念発起し、相模原市立の中学校で施設等の維持管理の仕事に従事した。ここで、高校時代や町道場等で経験してきた柔道との出会いがあり、六十三歳にして部活の外部指導員となり部員の面倒をみることとなり、六十八歳となった現在も、柔道だけは続けている。体力的にはそろそろ限界かなと思いつながらも、子供たちの成長を楽しむに、老体に鞭打ってお付き合いをしている。

他方、趣味的には六十歳過ぎた頃から、何を思ったのか、大型バイクの免許を取得し、毎年九月に約十日間の日程で北海道（主に道東方面）へツーリングに出かけている。今年も九月には三回目の北海道十日間のツーリングがやってくる。妻も完全に諦めているようだ。六十八歳はまだまだ若い、外観は古く見えるが中身はまだ十分行けると自負している。高齢者の仲間入りし、介護保険証も頂き、社会からはあまり期待されない時代に突入してしまっただが、健康第一でこれからの人生を楽しみたいと考えている。

中京支部だより

昭和四十三年化学工業科卒

高 橋 洋 太 郎

同窓会皆様におかれましては、それぞれの方面で活躍の事と思います。

三年ごとの会報「にきうら」は日本各地での同窓会皆様が心待ちにしていると思います。須工最後の「にきうら」執筆ですが、須崎高校との統合に關して、同窓会長、役員様等大変ご苦労されていると思います。

中京支部も支部発展に、十八年の長きにわたり御尽力いただいた沖前支部長が退任され、其の後を引き継ぎました高橋洋太郎です。従来は、支部長主体に、支部役員数名が支部運営の補佐を行い、各地域担当として、世話人を十名置き勧誘等の業務をしておりました。今後は、支部長、幹事長（竹村隆、昭和四十六年化学工業科卒）と支部役員三名及び相談役として、沖前支部長にもお力添えいただき、新たなスタートにいたしました。

何もわからない状態の中で早や五ヶ月です。まだまだ力不足であります、この場をお借りしまして挨拶とご支援をお願いいたします。

中京地区もトヨタ自動車関連企業が主体で、この春も十数名が就職されています。

中京支部も、年を追うごとの高齢化に伴い、若い人達の参加が少ない事が残念です。何とかして若い人達が参加するには、どうしたらよいか頭を悩ましています。

同窓会のあり方、勧誘の仕方や幅広い連絡方法等がどうあるのかわかりませんが、就職企業との、コンタクト方法や企業視察等を、してみようかと思ひます。

まず、最近の就職企業で、何社かを目標にして同窓会の主旨、企業との情報を取り、互いに共有できる支部にしたい。

今年は、数社の企業の範囲で情報交換し、支部総会及び懇親会の場で情報発信したい。又、参加者が母校と企業の話作りができたらと思います。

話しは少し違いますが、五月本部総会が終了後、五月十六日に下呂温泉に向かいました。

須工同級生と葉山東卒の同級生八名にて、飲み会を催しました。

前日飲んだ人や、半世紀ぶりに逢う人、九年から十二年同じ教室で勉強と遊びにと歩んだ事などが話題になりました。

参加者は、運送会社社長、消防士、住友セメント、N T T、化学、日立、郵便局等々と、業種は様々ですが、第一線にて生きたこれまでの苦勞話が後を絶ちませんでした。

夜は、カラオケにて個々の持ち歌良し、最後は「南国土佐を後にして」を全員にて歌いました。カラオケ採点が、七十七点が出たらビールが飲める特典付が大変好評でした。

夜も零時過ぎ、足湯につかり、ホテルまで徒歩にて十分、後は寝床に向かいお休みなさい。

翌日は、生憎の雨でしたが下呂温泉を後にして、替え歌にて、それぞれの目的地に向かい散会です。またの再会を誓う下呂温泉でした。

さて、中京支部も、年一回の支部懇親会を十一月

十九日(土曜日)、名古屋駅徒歩五分の安保ホールにて、三時間(十二時から)開催予定にしております。支部役員及び世話人には、多くの会員が出席できるように勧誘をお願いしております。

特に、若い会員の参加を心待ちにしておりますが、同時に本部同窓会長、校長先生を早く招待出来る日を目指し頑張りたいと思います。

乱文ですが、どうか御無礼をお許しください。皆様同窓生のますますのご健康、ご活躍をお祈りし、中京支部の状況報告とさせて頂きます。

愛知県にお越しの時は、左記住所ですので、御連絡頂ければ、時間の許す範囲で、ご案内致しますので連絡ください。

須工同窓会中京支部

名古屋西之保藤塚四〇一

電話 〇五六八一二三―五三九七

京滋支部だより

思い出さな、こころには

昭和三十一年機械科卒

支部長 濱川 嗣 郎

同窓会の皆さんお元氣でお暮らしの事と存じます。今年も会報「にしきうら」の発行の年になりました。今回の発行が須崎工業高校としての単独の発行としては最後になるかも知れません。折角の原稿依頼が

来ましたが、京滋支部としては最近は何も活動をしていません。そこで今回は私の思い出ということで須崎工業高校に入学してからを振り返って見たいと思います。

昭和二十八年三月、田舎の志和という漁村から須崎の町にやって来ました。まず最初に下宿先を探さねばなりません。先輩の下宿先におふくろと頭を下げて何とか入れてもらった。直ちに別の所を探す事に。それから三回も下宿先を変わった。最初は西町、前に酒蔵が有ったように覚えている。その前に砲台近く後、すぐそばに富士ヶ浜があり良く散歩に行った。

須崎の同級生や、通学出来る人達に比べて多額の学費がかかりましたが、兄貴に全部出して貰った。感謝感謝です。高校三年間はそんな事もありましたがとにかく頑張り卒業した。学校生活の思い出は、全てのクラブの対抗試合。一、三年と関係なく総当たり。まず、一年の時、三年生の相模部の最強の先輩と対戦。一、二発で土俵の外でした。今でも鮮明に覚えています。

また、紅の池周りのミニマラソン。しんどかった。私は三年間、陸上部に籍をおき雨の日も風の日も練習に汗を流していました。現在、インターハイの真っ最中。竹村義典先生たちの指導を受け、インターハイを目指し練習を重ねて来た。四国予選で高松は屋島のグラウンドで四百mリレーに出たが予選敗退。二次予選には出れず。今のような全天候型トラックで超軽量なスパイクで出場していたらもう少しタイムが良かったかも。この年は霧の中、高松港を出た旧国鉄の連絡船「紫雲丸」と宇野港から出た連絡船「第三宇高丸」が衝突し沈没した事故がありました。

覚えていられる方も多いと思われます。一九五五年五月十一日朝の事でした。高知市立南海中三年の修学旅行生二十八人を含む一六八人が犠牲になりました。自分達が高松に行った時はまだ引き上げ作業は行われていなかった。港に無残に沈んでいる「紫雲丸」の船体を見て手を合わせた事も思い出されます。三十一年春、卒業式の日在校生が先輩を送る会をつくってくれた。講堂の上で何か唄を歌ったように覚えていられる。この事で多くの人前で話したり、唄ったりは余り苦に成らなくなりました。要領を得なかったり、音程を外す事は毎度のことですが・・・昭和三〇年代は就職氷河期で大変でした。

就職担当の先生方は大変苦労をしたと思います。それでも須工は毎年、高水準の就職率を上げていました。自分も何とか大阪の会社に入り、定年まで勤め上げた。大阪でもあちこち住所の移動があり。住宅、独身寮、借り上げ、社宅と大変でした。

少し景気が良くなると、各事業所対抗の野球大会が盛んに行われました。東京、山口、広島、高知、京阪と毎年のように行っていました。高知にも四回行って、春野球場でも試合をしました。いろんな大会に出場し、何度も大きな優勝旗を手に入れました。大阪から京都、宇治に来てから須工の京滋支部の立上げに参加し今日に至っています。広瀬、田村、上田先輩三人の支部長が頑張ってくれたお陰で、最初のうちは支部行事もかなりあり、多くの参加者もありました。今は何も出来ない。支部長の責任大です。京滋支部としての思い出は先輩達がソフトボールで全国大会に出場した年に、応援に行った事です。これからは頑張る度出て下さい。私達も還暦、古希で何回も全国選手権大会、選抜大会に出場して

います。北は青森、南は宮崎と毎年予選を勝ち抜いて出ています。各地の立派な球場でプレー出来て幸せです。東京ドーム、宮崎は巨人のキャンプ地球場等々。選手権大会では三位。選抜大会はベスト八が四回。

昨年、古希の選抜大会（徳島阿南市）で優勝し、今年もベスト四に残っている。春に大会があったが雨で順延になり、秋に周南市で続きを行う予定。連覇に向けて練習に励んでいます。これから統合問題で同窓会の運営も定かでない。今後何も出来ないし、大阪支部の行事に参加して貰うしか用はないと思います。大阪支部の皆さんにはご迷惑かと思いますが何卒よろしく頼みます。

訳の分からない事ばかり書きました。最後に同窓会員皆さんの健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

大阪支部だより

昭和三十五年造船科卒
支部長 増田 浩

皆さんお元気で頑張っていますか。昭和の人は体力も精神力も強いので、大阪支部の老人部隊も元気に、それぞれの道を頑張っております。金はないが時間はある。この時間を有意義に使っております。さて、大阪のほうですが、四〇年ころの昔に、本社を東京に移した会社が多く、大阪で稼いだ税金が、東京に流入してしまい、江戸時代以来の商売の町大阪が、経済的に地盤沈下を起こし、近畿一円が以前

のような活気が、失われてしまいました。このため、近畿圏の主要な産業であった、造船所や大手機械会社の工場の地方への移転、このために工業高校卒業の生徒が、就職する会社の範囲が狭くなってしまい、各工業高校も同窓生の、減少を生じております。大阪支部は、定期的に理事会を開き、本部よりの報告、理事会の検討事項会議、スポーツ行事としてのゴルフ大会、春や秋の行楽、そして、もちろん土佐人の集まりですので、新年会での「お客」で一杯飲んで、楽しく昔の自慢話を楽しんでいます。

一年ほど前から、須崎高校の、大阪支部の同窓会理事と、交流を深めております。来るべき統合がなったとき、お互いの意思が通じ合えますように、「同



志の心”を養っております。

お互いの幹部の交流、具体的には、須崎高校の總會への参加、須崎工業の理事会や、新年会にも参加いただきました。会ってみれば、工業の友人の兄弟が須崎高校のOBであったとか、出身地が近くであったとか、話の合うことが沢山ありました。統合も時間の問題になってきた様ですので、須崎工業高校同窓会も心して、この問題がスムーズに、履行できるように、協力していきたいと存じます。

大阪支部の長老さんたちも頑張っていますよ。野並顧問、谷理事、特にこのおふた方は、大変母校愛が強く、母校のためなら、どこにでも応援に参ります。ソーラーボートの福岡県での全国大会、東北仙台市での、全国の土井晩翠先生の校歌を歌う会などに参加して頑張ってくれております。どちらも高齢ですが、びつくりするほど元気浚刺です、たくましくもあり、ほほえましいことです。偉いおんちゃん”を覚えていてください。

さて、東京は四年後の東京オリンピックで沸いているようですが、大阪には今のところ、世界的なビッグイベントはありませんが、日立造船所の跡地に出来た、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)が、活気を取り戻しました。このところ、中国人の来訪が多く、京都、大阪は中国人がいっぱいで、大型販売店には、中国人の通訳付きです。ホテルはこの人達で一杯で、予約がなかなか取れません。日本人と思えば中国人、中国人と思えば韓国人。大阪は極東のルーツの方々で一杯です。沢山のお金を、まき散らしてほしいと思っております。

どの支部も同じ悩みですが、若い人の参入がなく困っております。ところが、今年は宝くじに

当たったような気分です。催しには数名の新しい方が参加いただき、そのうちの三名の方が理事になっていただきました。ほんのちよっぴり若返りました、感謝、感謝です。

卒業生につながる原因の一つに、就職したところの住所がわからないことです。会社あてに出しても何ら返事がありません。卒業生の皆さん、同窓会に入って、母校の先輩後輩と昔話を楽しんでください。昔の優しかった先生、こわかった先生、ひょうきんで面白かった先生、先生たちを酒の肴にしての昔話は傑作ですよ。ユニークな先生が沢山いましたね。今なら生徒をたいたら大変なことですが、昔は悪さをすると、先生が愛情を込めてげんこつが飛んできたものでした。いい時代でした。昔は先生に、敬愛を込めてニックネームを付けたものでした。体の大きい田所先生には「ジャイアン」、たっぺい先生には「たっぺいちゃん」と生徒たちに親しまれたものでした。優しい恩師の方々有り難うございました。

大阪支部も頑張ります、皆さんもお体を大切にしてください、人生を大いに楽しみましょう。

平成二十八年八月吉日

押

高知支部だより

昭和四十年電気通信卒

支部長 加納弘史

各地の同窓会のみなさん、ご健勝で、益々ご活

躍の事とお喜び申し上げます。

高知支部の取り組みをご報告致します。高知支部では毎年、総会と交流会、ゴルフ大会を開いています。

今年の総会と交流会は五月二十八日(土)午後六時から「ホテル日航高知 旭ロイヤル」で開催しました。総会には、ご来賓として母校の校長先生をはじめ、同窓会本部の会長、遠くから関東支部の支部長もご出席頂き、又、校長先生には学校の統合や生徒たちの活躍などを交えたご挨拶を頂きました。本当に有り難う御座いました。

高知支部も高齢化が進み、参加者が少なくなってきましたでしたが、今年の二月に若い人達で青年部を結成して頂き、青年部が何回か話し合いを開いて交流会などの企画をして頂きました。

ご案内のハガキも交流会を印象付ける記述とし、従前の一六〇名から、本部にお願いして高知支部の地域の名簿を送って頂き、思い切って一、三五〇名へ青年部で印刷・発送してもらいました。結果は不在、死亡、欠席者を含めて五一一名の方々からご返事を頂きました。

当日の参加者は、若い人達からの声掛けもあり、若者の参加が増えて昨年より多く、五〇名近くに参加で盛会となりました。

又、青年部がインターネットのフェイスブックに開催のご案内を掲載したところ、フェイスブックを見た京都在住の卒業生から「住所をあらかじめ変った。今回は参加できないが、機会があれば参加したい」との手紙を頂きました。案内が広がっていると感じました。

交流会は、はじめに株式会社「建匠」の西村社長

須崎支部だより

昭和五十四年機械科卒

支部長 坂 本 定 浩

より一〇分程度、建築に関するお話をさせて頂きました。熊本地震の被害調査に行った経験から「倒壊家屋から五〇メートル離れた所で、被害を受けてない家屋もあり、今後の耐震問題は建物の耐震だけでなく、地盤まで調査せんといかん」と云われたのが印象に残っています。

校長先生に乾杯の音頭をとって頂き、ご歓談後に、ビンゴゲームやカラオケも楽しんで頂き、最後に校歌を全員で歌って散会となりました。

後日、県展に何回も入選しているアマチュア・カメラマンの方から写真を二七〇枚ほどDVDに入れて全員にプレゼントしてくれ、記録にも残る総会となりました。

ゴルフ大会は総会の前日に、高知ゴルフクラブで開催しました。三〇名が参加し、交流を深める良い運動となりました。参加者からは「人数は少ないが、親睦ゴルフ大会は続けてやりましょう。」との声が出ていました。

みなさん、来年も総会と交流会、ゴルフ大会は五月下旬を予定していますので、どうぞ今から時間を空けておいて下さい。

又、今年は三年に一度の「本部総会」が九月に須崎で開催されます。この原稿を書いている7月現在は、高知支部からはバス一台を貸切って参加するため、案内状や乗車場所の検討など、青年部と打ち合わせをしながら準備に取り掛かっています。

今後とも、卒業生の交流と親睦、母校の応援のために、微力ながら取り組んで参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

毎日暑い日が続きますが、同窓会会員各位におかれましては、益々ご清祥の事と存じます。

須崎支部におきましては、平成二十五年度に前任の梅原支部長（四十七年C卒）が支部長を退任され、代わって私が支部長をお受けしました。何かと至らぬ点があるかと思いますが、精一杯頑張らせていただく所存でございますので、よろしく願致します。

さて、須崎市では八月五日から七日までの間、須崎まつりが開催されます。その中でも七日のドラゴンカヌー大会は母校の造船科が艇を建造し、須崎市へ贈呈した事から始まり、今年で十八回目を迎えます。須崎市の行事として定着しており、高知県でも唯一の龍艇競争の大会となつて我々同窓生としても誇り高い行事となりました。また、「ドラゴン甲子園」として高校生のドラゴンカヌー大会も行われ、母校の生徒たちも大活躍しております。

そして、母校造船部においては、今年も「柳川ソーラーボート大会」で学生スラロームの部、周回レースの部とも優勝と準優勝を果たし、スラローム競技は四連覇、周回レースの部は三連覇更新中であります。私も大変うれしく思い、一度は柳川へ大会を応援しに行つてみたいと思っております。

現在、九月二十四日に行われる同窓会総会に向けて準備を行っている所です。平成三十一年度より須崎高校との統合が予定されており、須崎工業高校の

名前がなくなりそうで寂しいものですが、総会当日はたくさん同窓会会員の方々とお会いできることを楽しみにしております。

最後になりましたが、須崎支部に対し、いっそうのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。皆様のご活躍とご健勝を祈念し、ご挨拶とさせて頂きます。

幡多支部だより

昭和四十三年機械科卒

支部長 宮 本 博 行

幡多支部は十分な同窓会活動が出来ていません。支部総会は年に一回は行っていますが、役員と数名程度の会員しか集められていません。

いつも参加のメンバーは年々高齢化し、参加者が減っています。また、役員との年齢差がある若い会員の情報が入らない状況です。最近の卒業生は黒潮町がほとんどですが、その役員が欠員のままになっていることもその原因の一つと言えます。

伝統あるわが母校も須崎高校との統合という悲しい状況の中にあります。各科はどうなるのか、校名・校歌はどうなるのか。同窓会はどうなるのか等も心配しています。

幡多支部も役員体制を再構築して、面積は広い地域ですが、それをカバーするために各市町村に連絡をとれる体制をつくっていかねばならないと思っています。

事務局だより

昭和四十七年化学工業卒

事務局長 梅原 正博

平成二十八年度 総会 及び 須崎高校との統合についてご報告



同窓会の皆様におかれましては、お元氣でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、今回の事務局便りは、九月二十四日に開催されます本部総会の内容と、平成二十六年一月に高知新聞紙上に掲載され、始まりました須崎高校との統合についてご報告をさせていただきます。(本報告は発行時期の都合上、二十八年度総会前の報告書となります)

平成二十八年度総会について

前回平成二十五年度は須崎市大間のJ A土佐くろしお三階ホールで開催しましたが、J A移転により二十八年度の開催は須崎プリンスホテルでの開催となります。

総会では、竹村校長先生・谷脇副校長先生・中野教頭先生・西村事務長にご列席をお願いいたします。

会員では県内外の支部長さんをはじめ同窓生の皆さん、約一六〇名以上のご出席を予定しています。

前回の参加者は、昭和卒業の同窓生が一一六名、平成卒業の同窓生が四二名で、年の差七十歳という須崎工業高校の歴史を感じる総会を開催する事が出来ました。今年度はプリンスホテルでの開催という事で、二十五年度以上の幅広い同窓生に出席いただく

よう現在準備中でございます。

総会終了後は、引き続き懇親会を開催し、おいしすさきの魚や料理、お酒を飲み交わし、最後は全員が校歌を合唱し、三年後の再会を約束してお開きいたします。

総会の内容につきましては以下のとおりです。
議題

- 一、平成二五・二六・二七年度事業報告
- 二、平成二五・二六・二七年度会計報告
- 三、監査報告
- 四、役員改選・新役員挨拶
- 五、平成二十八年度事業計画(案)
- 六、平成二十八年度予算(案)
- 七、その他 統合に関する報告外

役員改選につきましては理事会において、平成二十六年度に大阪支部長 増田浩氏(昭和三十五年造船科卒)、平成二十八年度に中京支部長 高橋洋太郎氏(昭和四十三年化学工業科)がそれぞれ本部理事として承認されました。また、平成二十八年度理事会において高知支部の秋山正元氏と、前中京支部長の沖良二氏が理事退任について承認されました。

尚、役員名簿は本誌に掲載しておりますのでご確認ください。

平成二十八年度の事業につきましては、

四月 母校教職員歓迎会

統合後の校名に関する委員会

五月 本部理事会

高知支部総会

開校記念式典 記念講演 奥四万十博事務局

開校記念品贈呈

六月 四国インターハイ出場激励(女子ハンドボール・相撲個人)

九月 同窓会総会開催

十月 四国大会出場激励

平成二十九年

二月 卒業記念品発注

卒業生への終身会費納入お礼状作成

三月 卒業証書授与式 会長祝辞送上

会計監査

となっておりです。

平成二十八年度の予算につきましては、

一般会計で総額4,451,914円が理事会で承認されました。

懇親会の前には本年八月一日二日に福岡市で行われました柳川ソーラーポート大会において母校造船部が見事優勝した時のDVDが放映されます。

以上、平成二十八年度の同窓会総会につきましてのご報告とさせていただきます。

須崎高等学校との統合について

須崎工業高等学校の学科編成や統廃合の動きにつきましては、以前より何かと取り沙汰されておりましたが、平成二十六年一月二三日の高知新聞紙上に、いきなり、高知県高等学校再編振興計画として須崎工業高校と須崎高校の統合がリリースされました。

同じ再編振興計画の中には、母校以外にも高知西高校と高知南中高校との統合も含まれています。

高知県の趣旨としては、少子化に対し、高等学校の教育の質を維持・充実していくためには、適正な学校規模を維持していく事が必要である。そのため、平成二十六年度一〇月に、平成二十六年度から平成三十五年度までの一〇年間の県立高校の振興の方向性及び適切な規模と配置等を示す「再編振興計画」と「前期実施計画」を策定した。

高吾地域の生徒数減少が続く中、須崎工業高校と須崎高校は両校とも三学級規模の学校となっており、また、須崎高校は津波被害が危惧されている。こうしたことから、前期実施計画の中で、両校を統合し、高吾地域拠点校を高台にある須崎工業高校の敷地に設置することとした。

◎大まかな統合スケジュール

平成二十六年 計画発表、具体的な学科、必要な施設・設備・アクセス検討
 平成二十七年 校舎の基本設計、教育課程策定、校名の検討
 平成二十八年 校舎増改築の実施設計、校名・校歌・校章策定

平成二十九年 増改築施工開始、学科改編、1期入学生の募集・入学
 平成三十一年四月 統合、新高校誕生

◎同窓会としての統合に対するこれまでの動き

平成二十六年

二月三日

県教委からの説明会 同窓会、PTAより単独存続、校名・校歌存続の意見が多く出される。

三月一日

役員会開催、意見集約の結果、単独存続の要望書提出を決定。

三月一八日

県教委との意見交換、上記要望書を高等学校課長に手渡す。

五月一日

県教委との意見交換、県の教育委員協議会で六月に意見を聞く場を設けるとの報告あり。同窓会、PTAと事前協議し、再度文書にて意見を提出することを決定。

五月一〇日

理事会において、統合については反対、独自存続で今後も進んでいく事を決定する。要望書に沿った形で意見書原案を作成。

六月三日

県庁正庁ホールにて教育委員協議会開催。PTA四名、同窓会三名が意見を述べる。別途質問状を作成し、教育委員会協議会に提出。

七月八日

教育委員会協議会から質問に関する返答について、文化会館で開催。統合計画については、計画通り進めると教育長が言明。校名、校歌、学科編成については今後検討するとのこと。

と。
 七月一八日 学生・保護者・中学生とその保護者に対する説明会が開催。

二月二日

文化会館で全県対象とした説明会「パブリックコメント」が開かれる。これにて方向性が確定される。意見交換の時間があり、意見を述べるも計画変更の余地はなし。

平成二十七年

一月二二日

県教委との意見交換会が須崎高校で開かれる。統合については反対であるものの、当初計画の変更はない状態であるならば、校名・校歌の存続、通学路の設置について強く要望する。須崎高校同窓会との話し合いを持ち、県に対しての新たな通学路と、グラウンド拡張に対する連名の要望書をまとめる。

七月二九日

八月七日

進捗状況の説明会が開かれる。校舎増改築の建設業者の指名により二十七年度中の基本設計作成、通学路のルートについても前向きに検討中の事であったが、作成の要望書を提出。

十一月二六日

平成二十九年度の入学生が統合後第一期の卒業生となるため、須崎高校の同窓会と統合後高校の同窓会規定について話し合いを持つ。(以後現在までに三回)

平成二十八年

一月二六日

県庁正庁ホールにて、新しい学校の

みんなで校名考えて！

二月一九日 校名に関する意見書を県教委へ提出。
四月一二日 校名に関する検討委員会1回が開催。
意見書をもとに会長が意見を述べる。
どのようにして校名を決定するかについて
は委員会でご議論する。

公募の結果により、校名が絞り込めた時点で、両校の関係者が協議できる場を設けるように要望する。

高知南高校と高知西
高が統合する中高一貫校
と、(須崎工業)須崎高
が統合してできる高校の
校名に関する検討委員会
(西郷和彦)は「白」
新しくできる校の校名
候補を9月1日から一般
公募することを決めた。

県立高再編 来月から候補公募

両校の校名候補を公募
で決めることはこれまで
に決まっておらず、この日
は公募する期間などの詳
細を協議した。委員らは
「段階的な告知が必要で
は」ともたのちの協議を
聞く機会を」などの意見
を出した上で、募集事項
を決定した。

同検討委は「県民みん

カタカナのみ」理由

五月一八日 第二回校名に関する検討委員会が開催。
(公募の方法)
七月一三日 第三回校名に関する検討委員会が開催。
(公募の日程・周知方法)
八月一日 第四回校名に関する検討委員会開催
予定。
以上、統合に関する現在までの経過について簡単に
ご報告いたしました。当初は単独存続で要望を続
けてきたものの、県教委の計画に変更なく、現在は
校名決定の重要な時期となっています。校名の公募

「応募者の住所、名前
年齢」の記載が必要。住
所や年齢などにかかわら
ず誰でも応募できる。
高等学校編ホームペー
ジに専用の応募欄を設け
るほか、郵送(高知市丸
ノ内1-7-52 高知県
教育委員会事務局高等学

の中から、検討委が11月
上旬の会合で「校名候
補」を決める。候補は複
数の場合もあり、最終的
には県教育委員会が1案
に絞り込み、県議会に案
例改正案を提出する。
中高一貫校は2018
年度に中学が、21年度に
高校が始まる。須崎の統
合校は19年度の開校予
定。(佐藤雄一)

は九月以降です、この「にし
きうら」が皆様のお手元に届
くころにはすでに公募は終わっ
ているかも知れませんが、
同窓会としましては、校名・
校歌存続を引き続き要望して
いくこととしています。皆様
におかれましても、母校統合
の行く末にご関心を持ってい
ただければと思います。
同窓生各位におかれまして
は、時節柄何かとお忙しい時
期で、寒さも益々厳しくなり
ますが、さらなるご活躍とご
健勝をお祈りいたしますと
もに、同窓会へのご理解、ご
協力をお願い申し上げます。
ご報告とさせていただきます。

終身会費納入済者名

(平成25年9月から平成28年8月末日までに納入いただいた方々)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

平成25年度納入者

〈昭和48年卒〉 機 械 科 浜田 宏	〈昭和46年卒〉 機 械 科 谷 孝夫 化学工業科 山崎 昭助	〈昭和40年卒〉 電気通信科 原口美紗子	〈昭和28年卒〉 機 械 科 青島 毅
〈昭和50年卒〉 電 気 科 青木 昭二	〈昭和47年卒〉 機 械 科 岡 博明	〈昭和43年卒〉 電 気 科 壬生 直徳	〈昭和34年卒〉 機 械 科 山崎 正光
〈平成25年度卒〉 機械科 (21名) 石元 瑛雄		〈昭和44年卒〉 電 気 科 竹崎 幸雄	〈昭和37年卒〉 化学工業科 市村 俊英

〈昭和21年卒〉
機 械 科
浜田 潤一
〈昭和27年卒〉
機 械 科
松本 遊亀

鍋島 優斗
西岡 大輝
西森 文俊
野村 良喜
羽方 奨平
橋田 涼哉
濱口 航
日林 仁成
弘田 雄大
前田 賢
前田 悠貴
松岡 愛美
本山 善仁
森光 陸
山岡 奨弥
山岡 玲
山崎 大夢
山中 利也
吉本 凌

造船科 (16名)

今西 宏樹
岩本 寛樹
岡田 涼太
奥代 陸
田所 優弥
國澤 祐太
笹岡 修也
柴田 流聖
嶋崎 史晃
鍋島 拓矢
政平 和樹
松田 仁
松田 健
松山 京介
山崎 蓮
山地 誠昭

電気情報科 (24名)

新谷 康太
池田 孝太
大森 北斗
大山 亮
岡本 翼
片岡 和希
甲把 武士
岸本 健
木村 太我
桐越 大勇
芝田 翔
高橋 雅弥

谷脇 瑛典
中村 宗一郎
橋田 宇央
古谷 翔汰
丸岡 大晟
森 雅己
山崎 翔吾
山崎 巧
山地 忠夫
渡邊 竜成

**ユニバーサル
デザイン科 (13名)**

池田 茉衣
今井 恵梨香
上田 理保
梅原 佐和子
門田 綾
加納 歩
坂本 昌隆
鈴形 幹弥
高橋 和也
谷脇 正基
西森 亜羅汰
森 文香
和田 雄大

平成27年度納入者

〈平成27年度卒〉

機械科 (39名)

青木 大河
青木 寿樹
朝比奈 侑志
伊野上 功樹
梅木 海飛
大原 真悟
岡本 祐典
沖野 一聖
尾中 大聖
小田 賢人
近藤 航生
笹岡 昇輝
笹岡 省吾
下島 柊平
武村 一海
武森 洸大
田村 翼
田村 広稔
出来 蓮
長山 直樹

川上 貫太
清岡 督篤
楠目 竜礼
久保 寿成
久万 澤功祐
古味 誉
佐竹 陸
里見 廉
武田 将英
西森 功
橋田 侑人
東 朋幸
船村 司
政岡 頼我
正岡 陸
壬生 大貴
宮内 翔悟
明神 伸悟
森光 海清
森光 大毅
山口 光陽
山崎 秀哉

造船科 (10名)

梅原 綾太
江西 諒
黒川 友貴
田村 朋千
西森 駿
濱田 卓
藤田 翔也
松岡 晴樹
森本 智也
和田 志優人

電気情報科 (25名) 平成26年度納入者

秋元 士郎
井上 諒
伊與木 和希
岩佐 夏生
大谷 明日香
岡添 麻実
岡田 和音
岡田 拓摩
岡平 真海
片岡 紘祐
北島 聖
北村 光成
國吉 瑞輝
竹村 俊斗
竹村 祐樹

高橋 誠
高橋 佑弥
高橋 諒
武村 真澄
谷 耀介
谷脇 宇京
田村 将之
中山 大地
中山 竜也
西川 航司
能見 翔太
林 侑利
細川 賀勝
矢野 菜月
山中 登生
山本 耕笹
米田 湧也

**ユニバーサル
デザイン科 (14名)**

石田 夕樹
岡林 瑞希
三宮 椎菜
島崎 真里奈
末富 絢
高橋 美由
竹内 智春
津野 愛巳
徳永 里緒
西田 未来
日林 愛莉
藤本 徳菜美
松田 かれん
森 瑞香

岩本 大和
宇田 彩華
梅原 千生
久保 圭太
小田 龍斗
佐々木 博之
竹村 淳一
竹本 進
田村 聖
佃 悟至
出来 陵渡
中川 朋哉
西村 智仁
野村 長谷部
濱口 光
古谷 啓
明神 翔吾
森本 隆希
山中 健太

造船科 (14名)

黒川 洋輝
小松 力也
坂本 巧実
佐々木 魁斗
戸梶 康平
戸梶 貴行
西村 拓人
沼 一
濱口 翔平
藤野 樹仁
松本 照平
三好 達也
森 大樹
森下 佳

電気情報科 (30名)

石本 陽暉
市川 将大
市川 魅有
岡本 悠希
沖 拓未
門矢 紳平
鎌土 輝
久保 健太
黒原 潤
嶋崎 祐也
白石 京介
高野 直樹
高橋 直哉

〈昭和43年卒〉

**電気科
荒木 健吉**

〈平成26年度卒〉

機械科 (30名)

池田 拓也
井上 大輔
江洲 大貴
大崎 和輝
大崎 玲
岡村 勇輝
尾崎 隼豊
小谷 将輝

同窓会終身会費納入のお願い

同窓会の運営は、会則第7章会計、第21条に基づいて、会員の皆様からの入会金、会費、寄付金を以って充てていますが、その中でも卒業生からの終身会費が、主な財源となっています。

事務局におきましては、納入いただきました終身会費を積み立て、その利息で、活動資金の大半を捻出しています。

この実績にご理解戴き昭和53年以降の卒業生は、卒業の時点でほとんど納めてくれていますし、平成4年以降の卒業生は、卒業時全員納入いただけるはこびとなっています。

終身会費未納の皆様方には、(会報の中に郵便振り込み用紙をはさんでいます)同窓会活動を今後とも益々発展さすため、是非とも早い時期に終身会費を納入下さいますよう、ご協力をお願い致します。

尚、平成8年8月の総会にて終身会費を1万5千円に値上げさせていただきました。よろしくお願い申し上げます。

谷岡 夏樹
田村 円
富田 早貴
中嶋 康貴
中山 優華
松田 結花
村上 桃子
森野 葉
山川 歩莉
山崎 彩可

新山 忠成
西村 直人
西森隆一郎
野村 光
間 拓海
瀧口 透
藤澤正太郎
前田 善規
森光 雄大
山崎 風希
山田 風
山本 夏己

ユニバーサル デザイン科 (16名)

池 杏奈
岩本 侑也
岡 尚之
岡田 まゆ
清岡 早希
末富 沙南

会員諸兄にお願い

同窓会が3年毎に発 しています同窓会誌「にしきうら」ですが、全会員の皆様方のお手元に配布させていただきたく努力をしていますが、下記の皆様方には、連絡がとれず未配布の状態です。せっかく会員の方 からいただいた記事や母校の情報など、数多くの皆様に知っていただきたく、消息のお分かりになる方はごめんどうですが事務局まで連絡下さい。

(会誌内のとじ込み葉書をご利用下さい。)

平成25・26・27年度決算報告（会計）

平成25年度一般会計予算（案）

【収入】

単位（円）

項目	金額	備考
前年度繰越金	477,472	
新入生入会金	216,000	2,000円×108名
定期預金利息	58,000	
普通預金利息	800	
雑収入	0	
特別会計補助	2,350,000	
合 計	3,102,272	

【支出】

項目	金額	備考
会議費	50,000	理事会・その他
事業費	32,000	開校記念品代（ボールペン340本）
	25,000	卒業証書用丸筒代 81名
	50,000	卒業記念品代（印鑑ケース付 81名）
	1,150,000	会誌印刷・会誌送料・封筒
	100,000	總會補助費
通信費	30,000	卒業生進路先住所確認用ハガキ・目隠シラベル代等
事務費	10,000	
旅費	200,000	インターハイ激励金など
	500,000	支部総会・記念講演講師等
支部配分金	761,420	
		関東 200円 53,000円
		中京 250円 35,000円
		京滋 300円 22,200円
		大阪 200円 75,000円
		高知 200円 185,600円
		須崎 160円 324,320円
		窪川 250円 37,500円
		幡多 300円 28,800円
雑費	10,000	
予備費	183,852	
合 計	3,102,272	

平成25年度特別会計予算（案）

【収入】

単位（円）

項目	金額	備考
前年度末累積積立額	31,605,000	
平成25年度納入額	1,215,000	15,000円×81名
合 計	32,820,000	

【支出】

項目	金額	備考
一般会計へ補助	2,350,000	
合 計	2,350,000	

【平成26年度への累積積立額】

収入	支出	積立額
32,820,000	— 2,350,000	= 30,470,000

平成25年度一般会計決算報告書

単位 (円)

平成25年度特別会計決算報告書

単位 (円)

【収入】

項目	金額	備考
前年度繰越金	477,472	
新入生入会金	216,000	2,000円×18名
定期預金利息	57,078	
普通預金利息	805	
雑収入	4,426	平成25年度総会残金
特別会計補助	2,350,000	
合計	3,105,781	

【支出】

項目	金額	備考
会議費	17,592	
事業費	1,341,417	
通信費	30,000	
事務費	3,120	
慶弔費	200,000	
旅費	381,800	
支部配分金	761,420	
雑費	7,440	
予備費	156,410	
合計	2,899,199	

平成26年度への繰越金額

収入 3,105,781 - 支出 2,899,199 = 繰越 206,582円
繰越金額の内訳：高銀通帳 169,623円、現金 36,959円

【収入】

項目	金額	備考
前年度末累積預立額	31,605,000	
平成25年度納入額	1,185,000	15,000円×新卒79名
	205,000	旧卒14名
合計	32,995,000	

【支出】

項目	金額	備考
一般会計へ補助	2,350,000	
合計	2,350,000	

【平成26年度への累積預立額】

収入	支出	預立額
32,995,000	- 2,350,000	= 30,645,000

監査報告

通帳及び証書類等により監査の結果、金額その他については相違なく
預金通帳・定期預金証書とともに確実に管理され適正に執行されています。

平成26年 3月31日

監 査 山本 孝志

山下 剛史



平成26年度一般会計予算 (案)

単位 (円)

【収 入】

項 目	金 額	備 考
前 年 度 繰 越	206,582	
新 入 生 入 会 金	218,000	2,000円×109名
定 期 預 金 利 息	57,000	
普 通 預 金 利 息	800	
雑 収	0	
特 別 会 計 補 助	1,790,000	
合 計	2,272,382	

【支 出】

項 目	金 額	備 考
会 議 費	100,000	理事会・その他
事 業 費 〔 246,000 〕	71,000	開校記念品代 (ボールペン350本)
	25,000	卒業証書用丸筒代 81名
	50,000	卒業記念品代 (印鑑ケース付 81名)
	100,000	不明者調査・パソコン購入
通 信 費	30,000	卒業生進路先住所確認用ハガキ・ 目隠しラベル代等
事 務 費	10,000	
慶 弔 費	400,000	インターハイ奨励金など
旅 費	500,000	支部総会・記念講演講師等
支 部 配 分 金		関東 200円
		中京 250円
		京滋 300円
		大阪 200円
		高知 200円
		須崎 160円
		窪川 250円
雑 費		324,320円
		37,500円
予 備 費	20,000	28,800円
合 計	2,272,382	

平成26年度特別会計予算 (案)

単位 (円)

【収 入】

項 目	金 額	備 考
前年度未果積立額	30,645,000	
平成26年度納入額	1,215,000	15,000円×81名
合 計	31,860,000	

【支 出】

項 目	金 額	備 考
一般会計へ補助	1,790,000	
合 計	1,790,000	

【平成27年度への累積積立額】

収 入	支 出	積 立 額
31,860,000	— 1,790,000	= 30,070,000

平成26年度一般会計決算報告書

単位 (円)

【収入】

項目	金額	備考
前年度繰越金	206,582	
新入生入会金	218,000	2,000円×109名
定期預金利息	57,076	
普通預金利息	587	
雑収入	0	
特別会計補助	1,790,000	
合計	2,272,245	

【支出】

項目	金額	備考
会議費	50,844	
事業費	225,688	
通信費	18,602	
事務費	4,137	
慶弔費	400,000	
旅費	500,000	
支部配分金	761,420	
雑費	4,650	
予備費	123,830	
合計	2,089,171	

平成27年度への繰越金額

収入 2,272,245 - 支出 2,089,171 = 繰越 183,074円
繰越金額の内訳：高銀通帳 163,897円、現金 19,177円

平成26年度特別会計決算報告書

単位 (円)

【収入】

項目	金額	備考
前年度末累積立額	30,645,000	
平成26年度納入額	1,170,000	15,000円×新卒78名 (未納3名)
	15,000	旧卒1名
合計	31,830,000	

【支出】

項目	金額	備考
一般会計補助	1,790,000	
合計	1,790,000	

【平成27年度への累積積立額】

収入	支出	積立額
31,830,000	- 1,790,000	= 30,040,000

監査報告

通帳及び証書類等により監査の結果、金額その他については相違なく
預金通帳・定期預金証書ともに確実に管理され適正に執行されています。

平成27年3月25日

監 査 山本 孝志

山下 剛史



平成27年度一般会計予算 (案)

単位 (円)

【収入】

項 目	金 額	備 考
前 年 度 繰 越	183,074	
新 入 生 入 会 金	190,000	2,000円×95名
定 期 預 金 利 息	57,000	
普 通 預 金 利 息	500	
雑 収	0	
特 別 会 計 補 助	2,350,000	
合 計	2,780,574	

【支出】

項 目	金 額	備 考
会 議 費	98,000	理事会・その他
事 業 費 [440,000]	200,000	開校記念品
	60,000	卒業証書用丸筒代 97名
	150,000	卒業記念品代 (印鑑ケース付 97名)
	30,000	卒業生進路先住所確認用ハガキ・目隠シラベル代等
通 信 費	30,000	会計外部委託金含む
事 務 費	60,000	
慶 弔 費	500,000	インターハイ・四国大会激励金など
旅 費	300,000	支部総会等
支 部 配 分 金		関東 400円 106,000円
		中京 500円 70,000円
		京滋 300円 22,200円
		大阪 400円 150,000円
		高知 250円 232,600円
		須崎 200円 405,400円
		窪川 500円 75,000円
	1,118,200	幡多 600円 57,600円
雑 費	20,000	
予 備 費	214,374	
合 計	2,780,574	

平成27年度特別会計予算 (案)

単位 (円)

【収入】

項 目	金 額	備 考
前年度未累積積立額	30,040,000	
平成27年度納入額	1,455,000	15,000円×97名
合 計	31,495,000	

【支出】

項 目	金 額	備 考
一般会計へ補助	2,350,000	
合 計	2,350,000	

【平成28年度への累積積立額】

収 入	支 出	積 立 額
31,495,000	2,350,000	= 29,145,000

平成27年度一般会計決算報告書

単位 (円)

平成27年度特別会計決算報告書

単位 (円)

【収入】

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金額	30,040,000	
前年度末累積積立額	1,425,000	15,000円×新卒95名 (未納2名)
平成27年度納入額	15,000	H26・旧卒1名
合 計	31,480,000	

【支出】

項 目	金 額	備 考
一般会計へ補助	2,000,000	
合 計	2,000,000	

【平成28年度への累積積立額】

収 入	支 出	積 立 額
31,480,000	— 2,000,000	= 29,480,000

監査報告

通帳及び証書類等により監査の結果、金額その他については相違なく
預金通帳・定期預金証書ともに確実に管理され適正に執行されています。

平成28年3月23日

監 査 山本 孝志

山下 剛史



【収入】

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金額	183,074	
新入生入会金	190,000	2,000円×95名
定期預金利息	57,076	
普通預金利息	506	
雑 収 入	0	
特別会計補助	2,000,000	
合 計	2,430,656	

【支出】

項 目	金 額	備 考
会議費	44,000	
事業費	355,028	
通信費	5,578	
事務費	50,000	
庶 弔 費	410,000	
旅 費	274,250	
支部配分金	1,118,200	
雑 費	5,186	
予 備 費	0	
合 計	2,262,242	

平成28年度への繰越金額

収入 2,430,656 — 支出 2,262,242 = 繰越 168,414円
繰越金額の内訳：高銀通帳 162,279円、現金 6,135円

平成28年度予算 (案)

平成28年度特別会計予算 (案)

【収入】

単位 (円)

項 目	金 額	備 考
前 年 度 繰 越	168,414	
新 入 生 入 会 金	184,000	2,000円×92名
定 期 預 金 利 息	99,000	
普 通 預 金 利 息	500	
雑 収	0	
特 別 会 計 補 助	4,000,000	
合 計	4,451,914	

【支出】

項 目	金 額	備 考
会 議 費	80,000	理事会・その他
事 業 費 [1,810,000]	40,000	開校記念品代 (ボールペン)
	40,000	卒業証書用丸筒代 106名
	150,000	卒業記念品代 (印鑑ケース付 106名)
	30,000	卒業生進路先住所確認用ハガキ・ 目隠しラベル代等
	300,000	総会補助
	50,000	規定集作成 250
	1,200,000	会誌費用
通 信 費	30,000	
事 務 費	60,000	
慶 弔 費	500,000	イソターハイ・四国大会激励金など
旅 費	500,000	理事会・支部総会等
支 部 配 分 金		関東 400円
		106,000円
		中京 500円
		70,000円
		京滋 300円
		22,200円
		大阪 400円
		150,000円
		高知 250円
		232,000円
		須崎 200円
		405,400円
		窪川 500円
		75,000円
		幡多 600円
		57,600円
雑 費	20,000	
予 備 費	333,714	
合 計	4,451,914	

【収入】

単位 (円)

項 目	金 額	備 考
前年度未累積積立額	29,480,000	
平成28年度納入額	1,545,000	15,000円×103名
合 計	31,025,000	

【支出】

項 目	金 額	備 考
一般会計へ補助	4,000,000	
合 計	4,000,000	

【平成29年度への累積積立額】

収 入	支 出	積 立 額
31,025,000	4,000,000	27,025,000

同窓会役員名簿（平成28～30年度用）

平成28年5月

役 職	氏 名	卒業年度	科 別	郵便番号	住 所	備 考
相 談 役	清家 寛	昭和18年	機械 2 種	780-8022	高知市孕西町	
"	森岡 清	昭和26年	機 械	783-0041	南国市岡豊町	
顧 問	岡林 幸保	昭和28年	造 船	781-011 2	高知市仁井田	
"	山地 健三	昭和39年	化学工業	781-1143	土佐市波介	
名誉会長	竹村 謙			785-8533	須崎市多ノ郷和佐田	母校校長
会 長	林 和夫	昭和41年	化学工業	781-0311	高知市春野町芳原	
副 会 長	谷脇 澄男			785-8533	須崎市多ノ郷和佐田	母校副校長
"	竹村 寿夫	昭和34年	造 船	781-0252	高知市瀬戸東町	
"	戸梶 昭雄	昭和45年	電 気	781-2151	高岡郡日高村下分	
"	梅原 正博	昭和47年	化学工業	785-0042	須崎市妙見町	事務局長
常任理事	森下 春茂	昭和21年	機械 1 種	780-0972	高知市中万々	
"	西山 庸一	昭和48年	造 船	785-8533	須崎市多ノ郷	
"	坂本 定浩	昭和54年	機 械	785-0030	須崎市多ノ郷	須崎支部長
"	川上 清英	平成元年	化学工業	785-0012	須崎市西糺町	
理 事	野並 允温	昭和30年	電気通信	566-0055	大阪府摂津市新在家	
"	濱川 嗣郎	昭和31年	機 械	611-0044	京都府宇治市伊勢田町	京滋支部長
"	福井 幸正	昭和34年	機 械	221-0864	神奈川県横浜市神奈川区菅田町	関東支部長
"	増田 浩	昭和35年	造 船	665-0033	兵庫県宝塚市伊子志	大阪支部長
"	高橋洋太郎	昭和43年	化学工業	481-0033	愛知県北名古屋市新西之保	中京支部長
"	橋本 栄彦	昭和39年	化学工業	780-0967	高知市福井東町	
"	加納 弘史	昭和40年	電気通信	781-0312	高知市春野町平和	高知支部長
"	宮本 博行	昭和43年	機 械	787-1226	四万十市鶴ノ江	幡多支部長
"	金子 誠	昭和43年	機 械	788-0677	宿毛市沖ノ島町	
"	中川 次男	昭和44年	機 械	789-1301	高岡郡中土佐町久礼	
"	西内 一隆	昭和50年	機 械	786-0068	高岡郡四万十町若井	窪川支部長
"	伊藤 久文	昭和52年	電 気	785-0206	高岡郡津野町	
"	福原 靖幸	昭和57年	電 気	785-0001	須崎市原町	
"	海地登志夫	平成元年	化学工業	785-0033	須崎市大間西町	
"	高橋 誠幸	平成 6 年	造 船	780-0963	高知市口細山	
監 査	山本 孝志	昭和44年	電 気	789-1301	高岡郡中土佐町久礼	
"	山下 剛史	平成 6 年	電 気	785-0017	須崎市泉町	
会 計	外部委託					

同窓会に関する連絡は会長 林 和夫まで 〒781-0311 高知市春野町芳原1245-1
TEL:088-841-6718

校歌

一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝くもとに勇ましく
日々きたひぬく健児団

二、自然の暗示わが教
太平洋の荒波は
わが人生の活動か
更に心の平穩は
波静かなる錦浦

三、工業報国理想とし
自主独立の精神を
抱き責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐ふ

各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、所定の証明書交付申請書(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。

申請者には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書	一通につき四二〇円
成績証明書	一通につき四二〇円
単位修得証明書	一通につき四二〇円
送料	

送り先 〒七八五―八五三三

須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三
高知県立須崎工業高等学校事務室
電話 (〇八八九) 四二一―八六一
FAX (〇八八九) 四二一―七一五

証明書の件につき不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編集後記

今年のリオのオリンピックは日本選手の大活躍のうち平和裡に終わりましたが、同窓生の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、三年毎に発行する同窓会の会報誌「にしきうら」三十三号をお届け致します。母校の状況や同窓生の動向、また母校への諸連絡等にご利用下さい。

今号は、平成三十一年に、時代の変遷に伴い、須崎高校と統合される経緯やスケジュール、及びその内容等について、現時点で分かる範囲をご報告させていただいておりますが、これについては、今後同窓生諸兄の積極的なご提案やご支援ご協力をお願い申し上げる次第であります。

同窓生も、母校の歴史と共に増え続け、ついに一万人の大台を突破しましたが、それに伴い、各位の諸事情から住所不明の同窓生も可成りの数に達し、折角会報誌をお送りしても、その相当数が送り返されてしまう現状です。そこで今回は、母校の歴史の変換点にもなりますので、特別企画として、住所不明者の名簿を記載し、その調査と把握のため、諸兄のご協力を仰ぐことになりました。そのため、これまでの会報誌より可成り頁数が増えましたが、それによって、より一層の同窓会の充実を図る所存です。何卒よろしくご協力の程をお願い申し上げます。

最後にご寄稿下さいました皆様に厚くお礼申し上げますと共に、同窓生諸兄のご活躍とご健勝を心からお祈り致しております。

編集子

会報「にしきうら」第三三号

平成二十八年十一月一日発行

高知県立須崎工業高等学校

発行所 同窓会事務局

編集 馬酔木舎

高知市瀬戸東町三一―二八一

電話 (〇八八九) 八四二―六九一四

印刷所 ㈱西村膳写真堂

高知市上町一―一六四

電話 (〇八八九) 八二二―〇四九二